



News Letter no. 17

ニュース・レター

日本図書館協会児童青少年委員会 2015.3.1

■ 第34回児童図書館員養成専門講座参加者レポート

1. 児童図書館員養成専門講座（前期）を受講して

四街道市立図書館 阿部祐子

昨年度より窓口業務が委託となり、職員が半減する中、何かしなければという思いと、まわりの後押しもありこの講座の受講を希望しました。受講が決まって課題がとどいてからは、通常の業務をこなしながら課題に取り組む毎日でした。くじけそうになりながらも何とか提出して受けた前期の講座は、一日一日が本当にあつという間に過ぎる日々でした。終了時間を過ぎることも多かったのですが、まるで苦になりませんでした。

現在当館では電動書庫修理と、電算の入替をかねた蔵書点検に向け、除架・除籍作業を行っています。が、押樋先生の「図書館の魅せ方」の講義を念頭に置いて、利用者にとって見やすい書架を目指しています。また、今千葉県立千葉盲学校を紹介する展示を行っています。これからも当館ならではの企画を考えていきたいと考えています。児童書の蔵書の見直しも始めていますが、「児童図書館員の仕事」の講義での松岡先生の「児童図書館を支える根幹は選書」であるという言葉を常に頭に置いて進めているところです。

後期の受講を終えて一月半、仕事に戻ってからのめまぐるしさに、なかなか振り返るゆとりはありませんが、ブックトークの依頼も舞い込むなど、確実に講座を生かす場は増えていると思います。講師の先生方へは実践の報告を増やしていくのがなによりと思ひ、日々の仕事へつなげていこうと思ひます。



2. 第34回児童図書館員養成専門講座（後期）について

東京都立多摩図書館 長谷川和美

2014年9月29日(月)から10月8日(水)にかけて(10月4日は休み)、第34回児童図書館員養成専門講座の後期カリキュラムを受講した。

講座内容は、児童資料に関する講義と児童奉仕に関する講義に大別される。中でも宮川先生講義の「日本の児童文学」における、「声」の時代から「文字」の時代へという視点は非常に興味深かった。詩のような言葉で心象風景を描く大正期の童話から、様々な社会問題を描くために散文的な文章が必要とされた戦後の児童文学への変遷をはじめ、現代児童文学は緻密な書き言葉の世界であり、様々な主題を扱っていること、読者層の年齢が高くなり、一般の文学と児童文学の境目が曖昧なことなど、これまで断片的に得てきた知識を、一つの流れの中で整理することができた。このような歴史的背景を基礎知識として押さえておくことは、レファレンスやブックリスト作成、展示など、様々な面で役立つと思う。

集中して児童サービス全般について学んだ9日間は、自らの土台を作る上で非常に実りの多いものだった。今後業務を行っていく中で、講座で学んだことを還元していきたい。

3. クラウドサービスを利用した第34回児童図書館員養成専門講座受講生の交流について

川崎市立幸図書館 天本(山田)みつえ

第34回児童図書館員養成専門講座の期間中、私達16名の受講生は、今後の交流維持のためのツールを探しました。そして現在利用しているのが、パブリッククラウドサービスです。サークルや部活動、NPOや研究室等のコミュニティ運営を目的として無料提供されているサービスに登録し、自分達だけがアクセスできる非公開交流ページを立ち上げました。

ページには、掲示板や「つぶやき」、データフォルダやアンケート等、多くの機能が当初から備え付けられており、様々な目的に応じた利用ができます。画像や文書等のアップロードが簡単なので、イベントや研修の情報提供、自身で作成した講座原稿等の公開、最近読んだ本の感想を綴るブログ執筆等を、各メンバーが自由に行っています。

また、このページとは別に、絶版・品切れになっている名作絵本等の復刊を、受講生一同で出版社に働きかけるための準備作業も進行中です。



今回の講座で私達が得られたものは、素晴らしい講師陣が伝えて下さった知識や技術、情熱や意欲等と共に、全国各地で共に頑張れる仲間達でした。まだ拙い試みではありますが、今後もこのツール等を使って交流を続け、絆を深めたいと願っています。

■ 国際図書館連盟（IFLA）第 80 回リヨン大会

報告 1. 児童・ヤングアダルト分科会

児童青少年委員会 西尾初紀

2014年8月16日から22日まで、パリの南東約400kmにあるフランス第2の都市リヨンで、国際図書館連盟（IFLA）第80回大会が開催されました。世界132カ国から約3900名が参加、日本図書館協会からは代理も含め委員4名が出席しました。ちなみに、リyonは「星の王子さま」の作者サンテグジュペリの故郷であり、富岡製糸場にお雇い外国人技師ブリューナと紡績機械を送り出した絹織物で栄えた町でした。

1-1. 児童ヤングアダルト分科会常任委員会

「児童図書館サービスのためのガイドライン」に対する修正案が承認され、また、インターネット上のトラブルから子どもたちのプライバシーや安全を守るための指針「ソーシャルメディアと児童・青少年 @図書館」¹⁾ が新たに提案され承認もされました。

国を越えた「姉妹図書館」プログラムは6年目を迎えましたが、優秀な企画として特別に延長されてきたIFLA本部からの補助も打ち切れ、新たなスポンサー探しと、交流が沈静化している姉妹館には縁をとりもったゴッドマザー館による活動の鼓舞が必要と伝えられました。

各国の代表的な児童書10冊ずつ出し合う巡回展「絵本で知る世界の国々 - IFLA からのおくりもの」は本の追加を締め切り、カタログの最終版を刊行することになりました。旧版ではあらずじについて全く触れられていない本もありましたが、最終版ではその点は改善される予定です。また、この企画に続く「青少年向け図書で知る世界の国々」プロジェクトが進行していることが紹介されました。次年度以降の新常任委員の募集が伝えられましたが、加えて常任委員トップ3の委員長、書記及び財政・広報担当も次年度からは総入れ替えになります。

この大会内で本部から「情報へのアクセスと開発に関するリヨン宣言」²⁾ が出され、各国に持ち帰っての検討と署名が求められました。



会場内食堂で：塚原、西尾、コートジボアールからの参加者



蚕の繭・生糸の展示（リyonは絹織物で有名）

1-2. 児童ヤングアダルト分科会講演会

今回、児童ヤングアダルト分科会が行った企画は、他の分科会との共催のものや大会終了後のサテライト・ミーティングも含めると5つにものぼりましたが、その中心的テーマのひとつが“トランスメディア”でした。紙という“メディア”に囚われず、本を読んだ感想を映像で表現してインターネットで世界に発信したり、あるいは画像や映像、音声を組み合わせて新たな電子的資料の創作活動を

したりすることで、子どもたちのこのような活動を図書館がサポートする取り組みが数多く発表されました。また3Dプリンタを館内に設置するのもトレンドのようでした。

8月21日の講演会「世界を広げよう：児童・ヤングアダルト図書館のための参加型IFLAプログラム」での巡回展「絵本で知る世界の国々」に関する発表の中で、この巡回展用の資料の同じく寄託先となっているフランスと共に、昨年と今年のアジアでの巡回展について、巡回先（韓国内2館、震災津波被災地域3館を含む）と展示方法（本の内容紹介シート、協賛国紹介パネル等）について報告を行いました。

1) http://www.ifla.org/files/assets/libraries-for-children-and-ya/publications/social_media_.pdf

2) <http://www.lyondeclaration.org/>

（にしおはつき：国立国会図書館国際子ども図書館）

報告2 児童図書館訪問

フランスのリヨン市立図書館とモントルイユ市立図書館

児童青少年委員会委員 塚原 博

1. リヨン市立図書館 リヨンは、古くは「絹の町」、今は繊維産業の他、化学工業、医薬品、食品加工が盛んな商業都市であり、美食の町としても知られている。ローヌ川とソーヌ川の2つの川がながれていて、それらが合流する町である。人口は約50万人、人口密度1万人/㎥で、9区に分かれている。



そこに、15館の図書館網からなるリヨン市立図書館（Bibliothèque municipale de Lyon）がある。蔵書数380万点、図書館員はフルタイム換算で458人、全予算は27億8,697万円（1人当5,574円）、資料費約6,844万円（1人当137円）である。全受入点数は76,527点、その内図書は60,166冊、CD等録音資料6,643点、ビデオ・DVD9,718点、電子ジャーナル31種を含む逐次刊行物3,761種、登録者は市外も含め105,090人、リヨン市民は91,938人で18.6%の登録率である。

リヨン市立中央図書館入口（大通側1階）

オ・DVD9,718点、電子ジャーナル31種を含む逐次刊行物3,761種、登録者は市外も含め105,090人、リヨン市民は91,938人で18.6%の登録率である。

1.1 リヨン市立中央図書館 最初に訪れたのは、3区にある中央図書館（Bibliothèque Part-Dieu）である。傾斜地に建っており、児童室に行くには正面入口（2階）から入っても、リヨン駅前的大通り側（1階）から入っても1度2階へ導かれ、1階下へ降りていくことになる。

児童室は、長方形のワンフロアの脇に乳幼児室が付いた形であった。部屋の場所場所に異なった素材やデザインの椅子やテーブルを置いて特徴を持たせたレイアウトになっていて、それぞれ居心地のよい空間が作り出されていた。

児童室（一角にアジアの絵本を展示）





IFLA大会に合わせて、The world through picture books 展示会場として児童室全体を使い、隅々に各大陸毎に絵本を展示するという上手な手法をとっていた。バカンス中でもあり、子どもは時に来る程度で、カウンター脇にあるコンピュータ・コーナーでDVDの映画などを見ている子もいた。また、1階展示室では、図書館所蔵お宝展「Tresors!」が開催されていて、児童書では『赤ずきん』の古典的作品から最新作まで各種の本が展示されていた。

赤ずきんの本各種展示（1階展示室） なお、若い男性図書館員に聞いて、徒歩10分程（地下鉄で1駅）の3区の児童図書館（Bibliothèque du 3e）を訪れたが、休館中で外から見ることしかできず残念であった。

1.2 バシュー・メディア図書館

別の日に中央図書館が、児童ヤングアダルト分科会のセッションのオフサイト会場となった時に、児童図書館員に見学するといいと教えて戴いたのは、市南東部の8区にある大型のバシュー・メディア図書館（Mediatheque du Bachut）である。この図書館は数年前に新築されたもので、新住宅街として人口が増えている地域にある。1、2階が一般室で、3階が児童室になっている。

エレベーター又は階段で児童室に入ると新刊図書
の展示、雑誌コーナーを経て、サービスデスクがあり
児童図書館員がノンフィクション、フィクションの書架があり、その奥の広々とした場所に小さい子向けスペースがありスツールやマットが置かれていた。

そこにも相談デスクがあり、窓際と壁際に箱形の絵本架などが置かれている。南面は、床から天井までガラス張りで採光が非常によい。

子どもの利用も多く、お話会をしている他、新図書館を知らない子どももいるので学校と連携して図書館利用を推進しているとのことであった。



バシュー・メディア図書館



児童室：小さい子向けスペース

1.3 デュシエル図書館

バシューの館長の助言を得て、市北西部9区の地域のデュシエル図書館（Bibliothèque du 9e la Duchere）に向かった。バス停の目の前に、ショッピングセンタービルに隣接して、ガラス張りの新しい図書館があった。



デュシエル図書館（正面）



児童室：左；乳幼児、右；児童

この地区には、北アフリカや、コモロ諸島（アフリカ南東方、マダガスカル島の北部海域）、ベトナムなどから来た多様な人々が暮らしている。1960年代初めにアフリカ北西部アルジェリアからの移民が訪れ、住宅不足からルコルビジェの集合住宅とアメリカ式大型住宅の考え方を取り入れた住宅が造られ1970年代には人口が2万人にもなった。その後、建物は古くなり、反社会的行動や学業不振などが顕著になり、2003年には人口が12,500人と減少した。そこ

で、市は2016年までの大規模再開発に取り組んでいる。

旧図書館は、500m離れた道を隔てた所に70年代に創られ、2011年に新館は建てられた。700㎡の広さの図書館で職員は12人いる。1階部分がワンフロアになっていて入口を入ってすぐの所にサービスデスクがあり、大人の利用者が何人か見受けられた。児童コーナーは奥にあって、左手には、壁際に絵本架があり、ふかふかしたマットのようなものが置いてあり子どもたちがくつろげる場所となっていた。この場所は、右手には、児童書の書架で、児童用のサービスデスクがあり図書館員がいた。毎月お話会とわらべうたの会がある。学級や保育園の招待も行っている。

館長によると、ここの十代の子たちは行き場がなく図書館へやって来て、他の人と上手くいかず、穏やかな雰囲気と規則を守るように働きかけているそうである。

2. モントリュイユ市立図書館

モントリュイユ市は、パリ郊外東部にある人口10万4千人、人口密度1.1万人/㎢の市である。労働者が人口の41%、人口の19%は移民で、マグレブ（モロッコ、アルジェリア、チュニジア）、マリなどからの移民が多い。30以上の言語が話されている。議員の多数が左翼政党に属している。



モントリュイユ市立中央図書館

モントリュイユ市立図書館（Les Bibliothèques de Montreuil）は、中央図書館と3つの分館からなる。登録者19,800人で、モントリュイユ市民の登録率20%。内訳は、児童（0歳から14歳）が31%、一般（15歳から）が69%である。最近の調査では、25~30%の人が何らかの形で図書館を利用している。

貸出点数は430,600点、小説101,610冊（うち児童38,810冊。38%）、ノンフィクション60,941冊（うち児童21,944冊。36%）、B.D. (bande dessinée:フランスのコマ割漫画)など76,256冊（うち児童47,059冊。62%）、CD 76,425点、ビデオ26,827点。予算3億3,750万円（1人当3,245円）、資料費3,915万円（1人当376円）、受入れ冊数16,400点、人件費2億7千万円。図書館職員60人、5人の館長からなる館長会がある。



2.1 モントルイユ市立中央図書館

IFLA大会最終日に行われた図書館ツアーで、モントルイユ市立中央図書館 (Bibliothèque Robert-Desnos) を訪れた。

横丁：ヤングアダルトコーナー リヨンからTGV（新幹線）でパリへ、メトロ1号線と9号線を乗り継ぎメリー・ド・モントルイユ駅で降り、徒歩数分の緑豊かな公園の中にあった。3年前に退職したヤングアダルトサービスに力を注いできた前館長さんと多文化サービスの担当者が主な案内をしてくださった。創意に富んだヤングアダルトサービスに取組まれて来たこと、また、フランス語を母語としない人や、幼い子へのサービスへも重点をおいていることなどのお話しのあと、館内を巡った。児童コーナーはすみずみまでよく整備されていて心地がよかった。この日は、休館をしていたが、図書館員の人たちは、開館に向けてきびきびと書架見出しや掲示物を手づくりして所定の位置に配置していた。職員の中にデザイナーがいて、写真を撮ってくれた。見学後、図書館前の公園の芝生のところで、前館長さん、図書館員数名とツアー参加者全員で銘々持参したランチを食べながら会話を楽しむことができました。（つかはらひろし：実践女子大学）



Robert-Desnos図書館員とツアーメンバー

報告3 The World Through Picture Books / 絵本で知る世界の国々～IFLAからのおくりもの～

児童青少年委員会委員 依田和子



静岡県立中央図書館



茨城県立図書館

2012年のIFLAフィンランド大会から始まった展示も2013年の韓国巡回の後、国内では鎌倉を皮切りに、2014年度からは5月の国際子ども図書館での展示の後、日本各地で実施され、静岡、茨城、

大船渡と日本各地を巡ってきました。この企画の発案者である私としては、36 か国約 300 冊の世界各国からの‘おくりもの’がどんなふうに活用されているのか知りたくて、3 か所の展示を見に行ってきました。

① 静岡県立中央図書館 6月11日～29日

10年前に子ども図書研究室ができて以後、児童書の全点収集に取り組んでいる全国的にみても数少ない図書館の一つです。講演会は6月22日に行いましたが、展示期間中図書館員とボランティアの方々がフロアトークをされるということでしたので、6月14日に事前研修をしてきました。展示本36か国約300冊のうち日本語の翻訳本は50冊ほどであること、本の概要と書誌事項が記載されたりリストは英文と各国言語のみである（国際子ども図書館作成の日本語版解説は1作品ごとに1シート本に挟んで展示）ため、IFLAのサイトにアクセスして「英文＋言語の解説リスト」を入手し、準備をされた方々もありましたので、来場者への説明がスムーズにできたようです。図書館発行の「子ども図書研究室だより2014.9.1発行No.72」に詳細が載っています。

② 茨城県立図書館 7月21日～8月3日

大船渡で展示を担当される「ちいさいおうち」の中井さんが実例を事前に見たいということだったので、見学のいい機会と考え、私も一緒に行ってきました。図書館入口を入ってすぐ左にあるギャラリーが展示会場になっていて、休憩と食事もできる休憩室が隣接、ギャラリー右手には「こどもとしょじつ」と児童図書研究室という好条件の場所だったこともあり、ふらっと立ち寄る方も多かったようでした。来場者の中には片端から本を手にとって、じっくりページを繰りながら見入っている方もいらっしゃいました。

③ 大船渡市民文化会館 9月10日～21日

主催：陸前高田こども図書館・うれし野子ども図書室分室「ちいさいおうち」・大船渡市立図書館

大船渡での展示の発案者である「ちいさいおうち」の高橋さんは、展示会場探しに苦労されたようでしたが、若い職員の中井さんなどの力を借り、大船渡市民文化会館内にある大船渡市立図書館の協力も得て、魅力的な展示となっていました。展示セットの日本語版だけでなく、掲載国の地図、掲載国の学校の様子や食べ物を紹介した知識の本も併せて展示されていたので、来場者は幅広く世界の子どもたちの様子を知ることができたと思います。会期中は地元の人たちとともに、毎日おはなし会をされたということでした。



* 巡回展示その後

2015年2月の岩手県立図書館での展示の後、「IFLA からのおくりもの」は3月にオーストラリアで展示され、以後日本国内を巡る予定です。2015年度の募集は終了しましたが、年末年始にかけて2016年度の募集がありますので、詳細につきましては国立国会図書館国際子ども図書館のホームページ (<http://www.kodomo.go.jp/event/lend/>) にアクセスしてください。

展示本の解説付きカタログ改訂2版「The World Through Picture Books」のダウンロードは <http://www.ifla.org/files/assets/hq/publications/professional-report/136.pdf>、詳細を知りたい・注文したい方は <http://www.ifla.org/publications/ifla-professional-reports-136?og=51> へアクセスしてください。改訂2版では、参加国が16か国増え、掲載冊数も500冊に増加しています。絵本を通して世界中の子どもたちの交流が進むことを願っています。

2012年8月 IFLA フィンランド大会 展示



第1回展示 ヨエンスー プレ大会展示



ヘルシンキ 本大会展示

(よだかずこ：元 IFLA 児童・ヤングアダルト分科会常任委員)

■ 活動報告

1. 委員会開催：2014年4月21日、5月12日、6月9日、7月14日、8月11日、9月22日、10月20日、11月17日、12月22日、2015年1月19日、2月23日（いずれも月曜午後2時～5時）
2. 全国図書館大会：2014年10月31日・11月1日 会場：明治大学リバティータワー

第11分科会 児童青少年サービス「読書が培う子どもの未来—児童図書館の力」11月1日（土）

*詳細は『図書館雑誌』2015年1月号（vol.109 no.1 p.23 塚原博 記）、『第100回全国図書館大会東京大会記録』2015年3月発行（pp.101-105 護得久えみ子 記）を参照してください。



■ 今後の予定

◇第 35 回児童図書館員養成専門講座 会場：主に日本図書館協会

前期：2015 年 6 月 22 日（月）～6 月 27 日（土）

後期：2015 年 9 月 28 日（月）～10 月 7 日（水）

※ 図書館雑誌 2 月号ならびに日本図書館協会のホームページ <http://www.ila.or.jp/> に募集要項掲載

◇全国図書館大会

期日：2015 年 10 月 15・16 日（木・金） ※ 児童青少年分科会 16 日（金）

テーマ：読書によって培う子どもの未来と児童図書館の力 part 2（仮）

会場：国立オリンピック記念青少年総合センター

◇平成 27 年度全国公共図書館研究集会（児童・青少年部門）

期日：2015 年 11 月 5・6 日（木・金）

研究主題：「子どもの成長を支える読書の力」（仮）

会場：岐阜市立中央図書館 ※ 平成 27 年 7 月新館開館予定

◇市区町村立図書館児童サービス全国調査 2015 年度実施予定

■ 委員名簿

浅見 佳子	鎌倉市中央図書館
川上 博幸	元・枚方市立図書館
護得久えみ子	東京子ども図書館
坂部 豪（委員長）	元・水戸市立見和図書館
杉浦 弘美	横浜市金沢図書館
杉岡 和弘	姫路市立城内図書館
高橋樹一郎	天理市立図書館
塚原 博	実践女子大学
中多 泰子	元・東京都立図書館
西尾 初紀	国立国会図書館国際子ども図書館
依田 和子	よこはまライブラリーフレンド

News Letter no.17 ニュース・レター

編集：依田和子

発行者：坂部豪

発行：日本図書館協会児童青少年委員会

発行日：2015年3月1日